

小5

特徴的な表現をとらえ、物語のおもしろさを伝えよう

研究主題 確かな国語力を育むための国語教育の在り方

－単元を貫く言語活動の充実・工夫を通して－

日立市立金沢小学校 江渕 良子

1 はじめに

中央教育審議会答申が指摘した国語科の改善の基本方針で「実生活で生きてはたらき、各教科等の基本ともなる国語の能力を身に付けること」と述べているように、国語の能力は各教科の基本となるものである。小学校学習指導要領解説国語編には、第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の目標において、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」と示されている。目的に応じた読む能力は、児童の実生活で生きてはたらく国語の能力であるといえるだろう。実生活で生きてはたらく確かな国語の能力を育てるためには一方的な教え込みではなく、主体的な思考・判断を伴う学びが言語活動を行う上で行われなくてはならない。そこで言語活動を単元を貫いて位置付け、児童自身が自分の興味や関心に基づき課題を設定し、その解決に向けて学びを深めていくことこそ確かな国語力を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

小学校第5学年「注文の多い料理店」において、単元を貫く言語活動を「紹介パンフレットを作る」に設定し、学習活動を工夫すれば、確かな国語力が育つであろう。

3 実践事例

第5学年1組 国語科学習指導案

1 単元名 物語のおもしろさを考えて読み味わおう（教材「注文の多い料理店」）

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「紹介パンフレット作り」を位置付けた。紹介パンフレットには物語の構成、あらすじ、登場人物の心情、特徴的な表現を記入する。物語の構成と人物の心情につながりがあること、そして特徴的な表現が登場人物の心情に関係があることや構成の転換として使われることなどを知ることは本単元でねらう「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」（C 読むことエ）を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

本学級の児童は、文学的な文章の前単元「世界でいちばんやかましい音」では、物語を設定・展開・山場・結末の4つの場面に分け、それぞれの部分について内容を短くまとめ、あらすじをまとめた。児童は物語が4つの場面に分けられることが多いことを昔話の「浦島太郎」や4年生で学習した「ごんぎつね」と比較することで理解することができたが、あらすじを短くまとめることや王子様の変化の理由に迫ることができない児童が多かった。また、単元を貫く言語活動を意識して学習を進めることに慣れていない

児童が多く、受け身で学習に取り組む様子が見られた。そこで、「注文の多い料理店」の教材文では、あらすじをとらえ、優れた叙述に触れることで物語の登場人物の相互関係や心情、場面についての描写にせまれるであろうと考え、本単元を設定した。

そのため指導にあたっては、まず導入で教師の作った紹介パンフレットを提示し、自分も作ってみたいという思いを持たせるようにする。次に、教材文で学習した人物の相互関係や優れた叙述についての読みの力を、すぐに自分の選んだ宮沢賢治作品に生かせるように学習計画を工夫する。学習を進めるに従って自分の選んだ宮沢賢治作品の紹介パンフレットが完成していくことになり、学習に主体的に取り組む児童の姿を期待すると同時に、自分の選んだ本の紹介パンフレットに書く、あらすじ・物語の構成・登場人物の心情・物語の特徴的な表現、それぞれの内容に応じた視点で物語を読む能力を育てることを通して、確かな国語力が児童に身に付くことを期待する。

国語科に関するアンケート 平成26年9月24日 男子16名女子17名計33名		
1 国語の学習は好きですか。	はい10名	いいえ10名
	どちらともいえない13名	
2 宮澤賢治の作品を読んだことがありますか。	はい9名	いいえ24名
3 どんな作品を読んだことがありますか。(複数回答)	注文の多い料理店6人 銀河鉄道の夜3人 風の又三郎1人	

4 目標

- (1) 物語に興味を持って、構成や心情を考えたり特徴的な表現を探しながら読もうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 登場人物の心情の変化や特徴的な表現などから、物語のおもしろさを読むことができる。(読むこと)
- (3) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
物語に興味を持ち、構成や心情を考えようとしたり特徴的な表現を探しながら読もうとしている。	登場人物の心情の変化や特徴的な表現などから、物語のおもしろさを読もうとしている。	言葉のリズムや語や語句の使い方、文や文章の表現の柔らかさ、美しさを感じながら読もうとしている。

6 単元の指導計画（9時間扱い）

主な学習活動	主な評価
1 賢治作品の「紹介パンフレット」作りの見通しを持つ。 ・教師の作った紹介パンフレットを見て、学習の見通しを持ち、教材文全文を読み	・「紹介パンフレット」を作る活動に興味を持ち、進んで教材文を読もうとしている。(関心・意欲・態度)

内容の大体をつかむ。 2 賢治作品の中から自分の興味のある本を選ぶ。 ・宮沢賢治作品のブックリストに従い、読んだ本の内容を簡単に記しておくようにする。 3 「注文の多い料理店」と自分の選んだ賢治作品のあらすじをとらえる。 ・設定・展開・山場・結末の4つの場面を色別のふせんで分け、あらすじをとらえるようにする。 ・選んだ賢治作品のあらすじをパンフレットに書く。 4 「注文の多い料理店」と自分の選んだ賢治作品の登場人物の感情曲線を考える。 ・人物の心情を表す言葉を文章に線をひきながら探し、人物の行動と感情にどんな関係があるか考える。 ・選んだ賢治作品にはふせんを使い、感情曲線を考え、パンフレットに書く。 5 「注文の多い料理店」と自分の選んだ賢治作品の特徴的な表現を探し、何を表しているのかを考える。 ・特徴的な表現が何を表しているのかを考える。 ・選んだ賢治作品の特徴的な表現と表しているものを紹介パンフレットに書く。 6 友達の紹介パンフレットを読み、「賢治作品を一言で表すなら」について話し合う。(本時) ・異なる作品を選んだ児童同士でグループを作り、それぞれの意見を交流する。	・読書の時間や朝読書の時間を利用し、数多く賢治作品に触れようとしている。(関心・意欲・態度) ・物語の大まかなあらすじを押さえ、物語の構成をとらえようとする。(読む能力) ・前時を生かして、選んだ賢治作品のあらすじを書いている。(読む能力) ・登場人物の行動と心情にどのような関係があるかを考えている。(読む能力) ・前時を生かして、選んだ賢治作品の感情曲線を書いている。(読む能力) ・賢治作品の特徴的な表現を探し、何を表しているのかを考えている。(読む能力) ・前時を生かして、選んだ賢治作品の特徴的な表現と表しているものを書いている。(読む能力) ・友達の紹介パンフレットを読み、「賢治作品を一言で表すなら」について自分の考えを話し合おうとしている。(関心・意欲・態度)
---	---

7 本時の学習

(1) 目標

○友達の紹介パンフレットを読み、「宮沢賢治作品を一言で表すなら」について自分の考えを話し合うことができる。

(2) 準備・資料

教師作製のパンフレット 自分作製のパンフレット 学習計画表 参考図書
ミニホワイトボード ペン

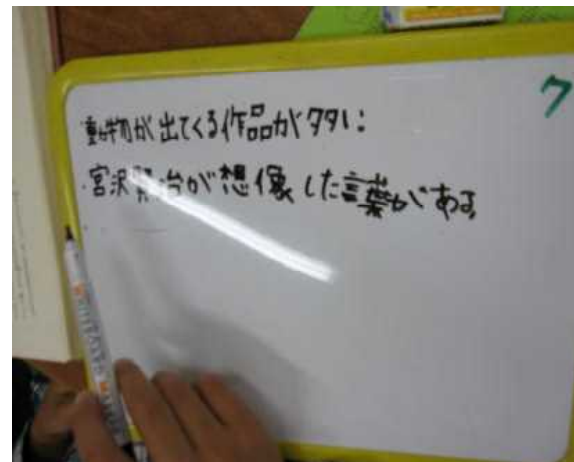
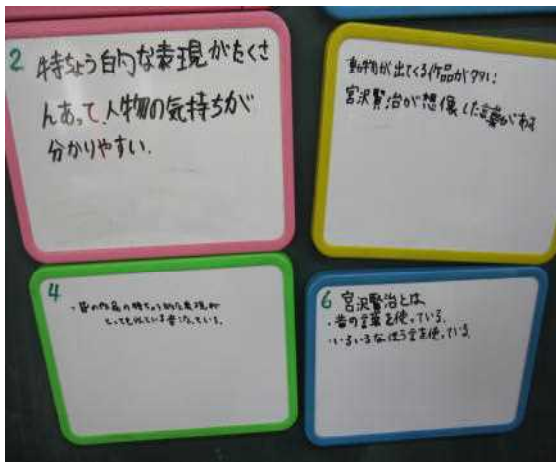
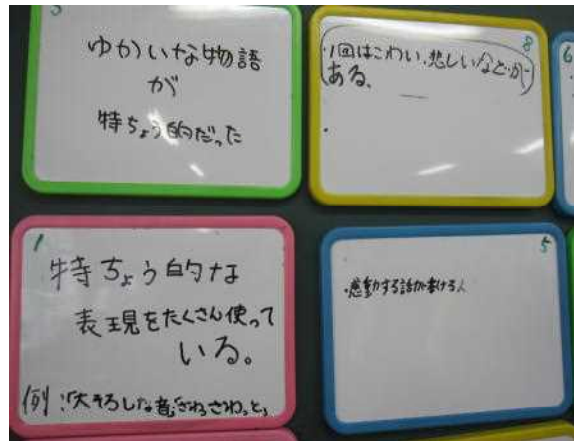
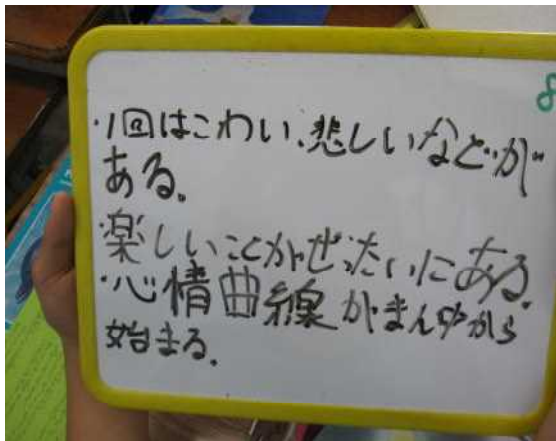
(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 「宮澤賢治作品を一言で表すなら」について話し合おう。	・作製したパンフレットをグループで読み合った上で、話し合いをすることを確認する。
2 友達の作ったパンフレットを読み合う。	・自分が作った作品と違う作品のパンフレットを鑑賞できるように、グループ組みに配慮する。
3 読み合った内容や感想を基に、「宮澤賢治作品を一言で表すなら」について自分の考えをノートにまとめる。 ・不思議な話が多い。 ・必ず自然が出てくる。 ・動物が主人公である。 ・言葉の使いかたが変わっている。	・紹介パンフレットを作製して感じたことや、友達のパンフレットや「注文の多い料理店」を読んで考えたことなどを基にまとめるようにする。 ・まとめられない児童には、特徴的な表現を探した時のことを思い出させ、それがどのようなことを表していたのかを考えさせる。
4 「宮澤賢治作品を一言で表すなら」についての自分の考えをグループで話し合う。 ・動物が主人公の話が多いね。 ・特徴的な表現はみんなあったね。 ・自然のことは誰も言わなかったな。	・友達の考えはうなずきながら聞くように話す。 ・出た考えをホワイトボードに書き出すように話す。 ・グループで出た内容の中から1番当てはまると考えられる内容を発表することとし、どの内容を残すのかを話し合うようにさせる。 ◎「宮澤賢治作品を一言で表すなら」について自分の考えを話し合うことができたか。(ノート・観察)
5 全体で発表する。	・グループで1番当てはまると考えられた内容を発表するように話す。
6 本時の学習を振り返る。	・学習計画表に自己評価を書き入れるように指示する。

4 研究の成果

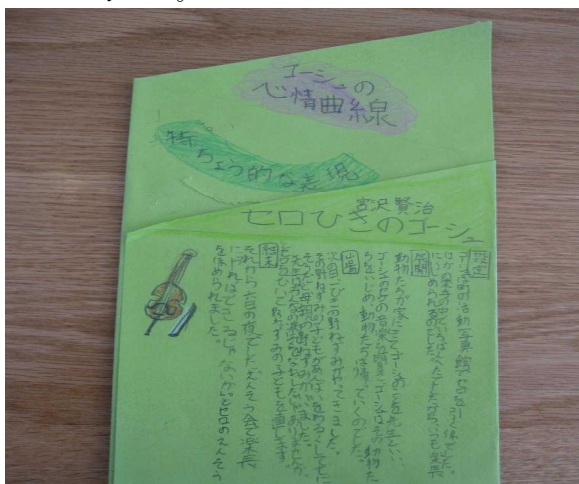
(1) 学習計画の工夫

本文で学んだことを自分のパンフレットにすぐ生かせるように学習計画を工夫したことで、どのように活動すればよいかが明確になった。前時の活動を思い出し、同じような手順をふむことで学習が進められることから、「先生、分かりません」という質問が減り、児童が自主的に活動することができた。教師が作成した2つのパンフレット「ごんぎつね」と「なめとこ山の熊」を参考にする児童も多く、グッドモデルの大切さと見通しを持ち学習に取り組むことの大切さを感じた。

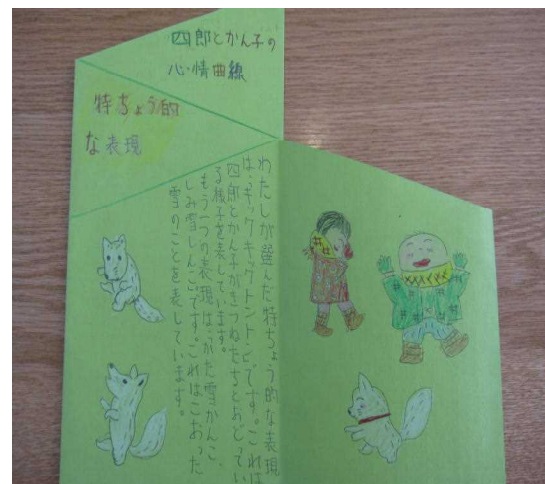


(3) 単元を貫く言語活動の選択について

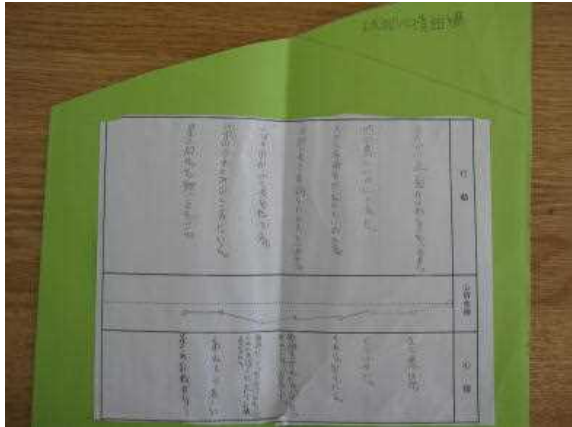
今回紹介パンフレットを設定したのは、児童につけたい力の3点をカバーするのに最適だと考えたからである。「児童につけさせたい力に最適な言語活動を選ぶ」ことが大切であり、本校作成の「児童につけたい力のマトリクス表」も参考にして決定した。さらにつけたい力に最適な言語活動の関係が分かりやすい資料を作製したり、言語活動の実践と結果が学校内で共有できたりすればより取り組みやすいのではないかと考えた。



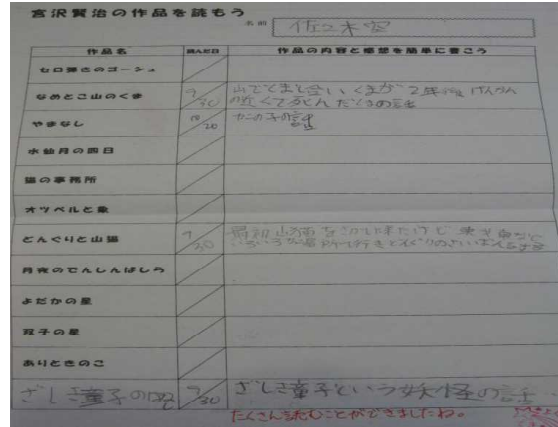
1 枚目 あらすじ



2 枚目 特徴的な表現



3枚目 心情曲線



ブックリスト

5 今後の課題

(1) 学力向上

今回市販テストの点数が下がってしまったのは、本学級の児童につけたい力と、テストのねらうつけたい力の視点のずれがあったからだと考えた。初めて読む文章であっても内容を理解し、設問の意味をとらえて解答できるような力を、単元を貫く言語活動を通して児童につけさせていくべきであると思う。

(2) 個人差をどのように扱うべきか

紹介パンフレットを3つの視点で作成したが、3つの活動が無事終わったのは33名中26名人で、2つ終わったのが5人、1つ終わったのが2人であった。全員あらずは終わらせることができたがつけたい力を達成できなかった児童が7名いたということを反省し、言語活動の中でつけたい力をつけていくことをこれからも続けていきたい。

(3) ブックリストを使った読書活動について

朝の読書の時間と図書室で読書する時間、本を選択する1時間の中で、多賀図書館から団体貸し出しでお借りした本を読む時間をとった。児童が読んだ本の冊数は平均3、2冊で、もう少し冊数を多くして宮澤賢治作品に触れさせる機会としたかった。国語の時間の始まる5分を固定化して読書活動に当てるなど、読書時間の確保も課題となった。

〈参考文献〉

『小学校国語科 言語活動パーフェクトガイド』 5・6年 水戸部修治編著 明治図書
 『小学校国語科 授業&評価パーフェクトガイド』 水戸部修治著 明治図書
 『小学校国語科 学習指導案パーフェクトガイド』 5・6年 水戸部修治編著 明治図書
 小学校学習指導要領解説 国語編 平成20年8月 文部科学省